

(別記)

令和3年度南関町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、良質米地帯として水稻を中心とした複合経営体が多く、多種にわたる野菜、大豆等が作付けされている。しかし、不整形で小規模な農地がほとんどのため、機械の導入も進まず、集積・団地化等の促進に遅れをとっている。

また、中山間地・少子高齢化による農家の減少等が理由と考えられる自己保全管理等の不作付水田が増加傾向にある。そのほか、転作作物については、排水不良等の圃場条件により単収の低下を招いており、基盤整備等の改善が必要になっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

1 適地適作の推進

当地域では、なす・さといも・万次郎かぼちゃを重点品目として定めており、水田農業の収益力向上のため、高収益作物等の作付けの推進を図る。また、農業者毎の作付体系に適合した品目の導入を図っていく。

2 収益性・付加価値向上への取組

高収益作物への計画的な転換を図るため、地域へ水田農業高収益化推進助成等の各種支援策の周知を行い、産地における水田農業の高収益化を推進し、ブランド化による有利販売や加工・業務用への取組、品質向上の取組、加工品のブランド化による付加価値の向上を図る。

3 新たな市場・需要の開拓

国や県の商談会や現地プロモーション活動を活用しながら、新たな需要が見込まれる高収益作物等の生産の支援を行う。

4 生産流通コストの低減

生産性向上のために、「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」や「産地生産基盤パワーアップ事業」等を活用し、施設整備を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

- (1) 人・農地プランの実質化に伴い、地域営農組織や認定農業者などの中心経営体に農地集積を進めていくとともに、高収益作物の導入を推進し農家所得の向上を図る。
- (2) 施設園芸が行われているような今後も水稻作に活用される見込みがない水田について点検を行い、点検結果を踏まえて、畑地化の取組の重点支援期間であることを周知しつつ、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

地域内の約 766ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持拡大を図る。

また、圃場条件の悪い水田は、可能な限り基盤整備等を進め農地の利用集積を推進することにより、経営規模を拡大し農業経営の安定を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

畜産農家とのマッチングや複数年契約加算の利用を図りながら、飼料用米の作付面積を現行 1.6ha から令和 5 年度には 2.5ha への拡大を目指す。

イ 新市場開拓用米

新市場開拓用米については、従来の主食用品種の用途で生じる価格差を解消することが難しいため、多収性で中外食用として取組が始まっている「やまだわら」を活用し取組を行う。10a 当たりの収穫量の増加と低コスト化に取り組み、主食用米との価格差を縮め、今後の需要拡大が見込まれる本取組を進めていく。

ウ WCS 用稲

畜産農家とのマッチングを図りながら、WCS 用稲の作付面積を現行 9.4ha から令和 5 年度には 11ha への拡大を目指す。

また、水田を最大限活用し生産性を高めるため、産地交付金を活用して、耕畜連携を推進する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、湿害を回避するための排水対策を実施する。また、品質向上及び収量性を高めるため、可能な地区において農地集積と団地化を促す。

飼料作物については、畜産農家の大半が水稻、野菜等の耕種部門との複合経営であり、畜産農家では、水田を利用し年間を通して、青刈りソルゴーやイタリアンライグラスなどの飼料作物を栽培している。今後も通年栽培を行うことで生産性の高い畜産経営に努め、経営コストの削減と併せて、飼料作物の作付面積拡大を図る。

また、水田を最大限活用し生産性を高めるため、産地交付金を活用して、二毛作の推進や耕畜連携を推進する。

(4) 高収益作物

産地交付金における園芸作物（野菜等）への支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。

また、特に振興を図っている「なす」「さといも」「万次郎かぼちゃ」を特別振興作物として、作付拡大を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	401 (2,017t)	401 (2,013t)	401 (2,013t)	401 (2,013t)
備蓄米	0	0	0	0
飼料用米	1.6	1.6	2.0	2.5
米粉用米	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	2.0	2.0	2.0
WCS用稲	9.4	9.9	10.4	11.0
加工用米	0	0	0	0
麦	0	0	0	0
大豆	5.9	6.5	7.2	8.0
飼料作物	10.4	10.9	11.5	12.0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0
そば	0	0	0	0
なたね	0	0	0	0
高収益作物	58.2	61.5	65.1	69.0
・野菜	46.4	49.7	53.3	57.2
・花き・花木	0.7	0.7	0.7	0.7
・果樹	11.1	11.1	11.1	11.1
その他	0	0	0	0
	0	0	0	0
畑地化	0	0	1	1

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は502kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				R2 年度	R5 年度
1	なす さといも 万次郎かぼちゃ	特別振興作物助成 （基幹作）	作付面積（ha）	18.9	23.2
2	飼料作物	飼料作物二毛作 助成 （二毛作）	作付面積（ha）	15.7	21.0
3	飼料作物 WCS 用稲 飼料用米	資源循環の取組 （耕畜連携/基幹 作・二毛作）	取組面積（ha）	7.8	10.4
4	野菜、 その他作物	野菜作付助成 （基幹作）	作付面積（ha）	27.5	34.0
5	新市場開拓用米 （輸出用米含む）	新市場開拓用米（輸 出用米含む）におけ る多収品種の取組	作付面積（ha）	0	2.0